

# 第39回日本内分泌学会 内分泌代謝学サマーセミナー ランチョンセミナーA

## 成人成長ホルモン分泌不全症に対する 治療のポイントと課題

**日時** 2021年7月9日(金) 12:30~13:30

**開催方法** ライブ配信及び現地開催・オンデマンド配信

講演の様子を、オンラインにてライブ配信させていただきます。

【現地開催会場】鴨川グランドホテル 2階「東雲の間」 〒296-0044 千葉県鴨川市広場820番地

当日のセミナー内容を収録し、後日オンデマンド配信致します。

【配信期間】2021年7月12日(月)~9月13日(月)

本サマーセミナーはHPより事前参加登録制となります。

【参加登録期間】2021年5月21日(金)~6月23日(水)

【学会HP】<https://www.c-linkage.co.jp/jesss2021/index.html>

**座長** 田中 知明 先生

千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学 教授

**演者** 福岡 秀規 先生

神戸大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 講師

**共催**

第39回日本内分泌学会 内分泌代謝学サマーセミナー

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 開発本部 メディカル アフェアーズ部



# 成人成長ホルモン分泌不全症に対する治療のポイントと課題

## 福岡 秀規 先生

神戸大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 講師

成長ホルモン(GH)は思春期をピークに分泌は低下するものの、その後も生涯にわたり下垂体から分泌され、幼児～思春期においては主に成長を、成人～老年期においては主に代謝調節を担っている。その作用はGHの直接作用とインスリン様成長因子(IGF-I)を介したエンドクリン、パラクリン、オートクリン作用により調整されている。GH分泌不全性低身長症に対するGH補充治療は30年以上の歴史を持っているが、成人GH分泌不全症(AGHD)に対する補充療法は本邦では2006年からの開始であり、今年で使用歴は15年目となる。この15年の間にも多くのエビデンスが蓄積され、治療におけるメリットや注意点、治療のポイントなど、その使用経験の中から見えてきたものがある一方、まだまだ残された課題も存在する。本セミナーではGH、IGF-I作用の主に代謝における分子学的作用と共に、AGHDの臨床におけるポイント、さらに今後の課題について演者の臨床経験も踏まえて概説する。